



## Contents

大学教育における課題の解決に向けて **2**  
**「平成25年度全学FDワークショップ」開催**

**連載** 部科校における学習支援等の事例紹介 **3**

第4回 **【松戸歯学部】 学習サポート委員会が国家試験合格を支援**

**連載** 授業改善のためのティーチングティップスの収集と情報提供

第5回 **理工学部物理学科が実践するウェブアンケートを活用した「基礎数学」の授業**

TOPICS /// 01 **「平成25年度 新任教員FDセミナー」開催** **4**

TOPICS /// 02 **「全国私立大学FD連携フォーラム」に加盟**

### COVER PHOTO

「人的資源管理論」のゼミナールで発表する学生。教壇で発表するスタイルは学生の発案。質疑に答えられるよう、レジュメの準備段階から教員や先輩がサポートする。(担当教員：経済学部准教授 加藤恭子)

# 大学教育における課題の解決に向けて 「平成25年度全学FDワークショップ」開催

平成25年12月25日・26日の2日間にわたり、日本学会館において「平成25年度全学FDワークショップ」が開催され、各部科校から選抜された教員が、全学共通初年次教育の推進をテーマにグループで討議しました。

全学的なFD研修は、前年度までシンポジウム形式で行われていましたが、今回は、各部科校にFDを推進する人材を育成することを目標に、各部科校からFD等教育開発の担当教員が参加するワークショップ形式で行われました。教育分野における概念や手法を取り込みつつ、指導のニーズに沿って検討する研修で、積極的な討議と体験を通して、実践的な教育の在り方を提示することが目的とされました。

開会挨拶では、FD推進センター長の牧村正治副学長が、「FD活動で有効な手法であるワークショップを学内に広めるためにも、有意義な研修となるよう協力をお願いしたい」と述べられました。

## ◎2日間で6つのセッションを討議

ワークショップの企画・運営は、全学FD委員会プログラムワーキンググループメンバーがプランナーとなり、ワークショップに精通している医歯薬系学部の教員にタスクフォースとしての協力を得ながら進められました。

参加者は、各部科校から1人ずつの計21人。教員5、6人、学務部教育推進課職員1人の計7、8人を1グループとして、4つのグループがつけられました。

各セッションは、基本的に、セッションの説明→グループ討議→発表・全体討議という手順で進行。司会・記録・発表の役割は、メンバーが全て経験できるように、グループ内で持ち回りとしました。また、参加者の大半がワークショップは



参加者はほぼ初対面のため、最初のオリエンテーションではアイスブレイキングとして他己紹介を実施。

未経験であったため、タスクフォースが適宜、進行をサポートしました。

全体のテーマは、平成26年度から各学部で順次、全学共通初年次教育科目「自主創造の基礎」が開講されることを受けて、「初年次教育」と設定。1日目は、法学部の佐渡友哲教授に「初年次教育に求められるもの」を演題に講演していただいた後、さっそくグループワークが行われました。セッションは、①初年次教育の問題点、②学習目標、③学習目標の修正、の3つです。

各セッションでの成果の順次性を考慮し、2日目は、1日目のセッションに続いて、④学習方略、⑤学習評価、⑥日本大学における全学共通初年次教育の充実に向けて、に関するグループ討議が展開されました。

最後に、それまでの討議のまとめとして、「日本大学における全学共通初年次教育の充実に向けて」と題し、重要度、緊急度、難易度から総合的に判断した解決すべき順序により、初年次教育における課題を掲げました。

## ◎学生による授業評価の活用を体験

1日目のオリエンテーションの段階では、参加者に堅さや不安が見られましたが、グループワークで議論が進むにつれて緊張感は和らぎ、メンバー同士の打ち解けた様子が見られました。率直な意見が出されるようになると、議論も深まっていきました。

工学部の子田康弘准教授は、「グループワーク形式は新鮮で、活発に意見交換ができたが、一方でFD活動を推進する難しさを感じた」と感想を述べました。また、通信教育部の鍋本由徳准教授は、「私のグループには4年制、短大、通信と全く学習形態が異なる部科校のメンバーがいて、同じ解決案でも実現可能な場合と不可能な場合があり、さまざまな意見を聞くことができた。具体的かつ現



グループワークでは、KJ法が用いられた。まとめた内容を模造紙に書き出し、グループごとに発表。

実的な議論ができたのがよかった」と、大きな成果を感じていました。

今回のワークショップについて、「全学で集まり議論をすると、悩んでいる土壌は皆、同じであると分かった。そこからどう改善していけばよいのか、前向きな議論ができた」と、タスクフォースの1人である松戸歯学部の平山聡司准教授は評価します。部科校を超え、時間をかけて深く議論する場にしたことによって、大学としての一体感がいっそう醸成されたようです。

閉会式では、参加者一人ひとりが感想や今後の抱負を述べるとともに、修了証が授与されました。全学FD委員会プログラムワーキンググループリーダーの村田英治教授(商学部)が、「ワークショップは初めての試みだったが、熱のこもった議論ができた。この場の成果を各部科校で生かして、FD活動を進めてほしい」と期待を語り、熱い2日間は幕を閉じました。



最後のセッション「日本大学における全学共通初年次教育の充実に向けて」の発表の様子。



連載

部科校における学習支援等の事例紹介

第4回【松戸歯学部】 学習サポート委員会が国家試験合格を支援

松戸歯学部は「学習サポート委員会」を設置し、学生の一番の目標である歯科医師国家試験合格を支援しています。中心となる取り組みは、個別面談です。1・2年生では1班12人の学生に対して教員1人が付き、臨床実習を行う5・6年生では1班約10人の学生を2、3人の教員が担当。1カ月1回程度のペース



グループワーク用のセミナー室を12室設置。主に6年生が活用する。

で学生一人ひとりと、試験の成績を基にして今後の学習の進め方などを指導します。「どの科目で合格点まで何点必要ななど、次の試験までにすべきことを具体的に伝えている」と、委員の1人である平山聡司准教授は面談のポイントを挙げます。

ほかに、定期試験で一定の得点に達しなかった5年生が利用できる自習室を設け、教員3、4人が当番制で常駐し、学生からの質問に答えています。教員から参加を勧められた学生の大半が放課後に利用しているといい、河相安彦教授は、その理由を「1年生からグループワークを奨励しているため、仲間がいる方が学



5年生の該当者は、臨床実習が終わる17時以降自習室に集まり、21時頃まで自主学習をする。

習しやすいのではないかと説明。1年次から、試験での班の平均点を発表したり、班ごとの勉強会を行ったりすることによって、競争意識や仲間意識を醸成しているとのことでした。そうした雰囲気や学習の場づくりによって、学生の学習意識を高め、自主的な学習に導いています。

連載

授業改善のための  
ティーチングティップスの収集と情報提供

第5回 理工学部物理学科が実践するウェブアンケートを活用した「基礎数学」の授業

理工学部物理学科は、約10年にわたり、1人1台のコンピュータを利用した実習形式で「基礎数学」の授業を行っています。黒板には描きにくいグラフや動画をコンピュータで描画することによって、式や言葉で表された量がグラフのどの部分に対応しているかを理解させることが、この授業の主な目的です。また、試験の分析結果を、毎年、学会等で報告・討論し、学生が誤解しやすい点の理解向上を目指しています。

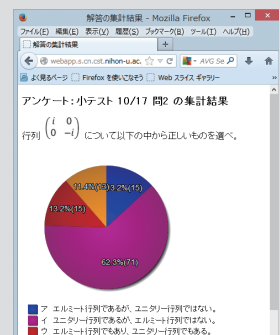
しかし、学生の弱点がわかっても、試験終了後に学生にフィードバックする機会がなかったのも事実です。

そこで、学生に授業の間に自分の弱点を把握させ、試験結果に反映させるため、戸塚英臣助手がウェブアンケートシステムを開発しました。このシステムは、パソコン以外に携帯電話やスマートフォンからも回答でき、単一選択のアンケートだけでなく、複数選択や自由記述にも対応しています。さらに、ネットワークが接続されていれば、回答と同時にその結果をグラフにできます。

2012年度からこのシステムを活用し、簡単なクイズを行いながら授業を進めています。回答結果のグラフを提示しながら解説をすることに

より、学生が誤解していた内容をその場で把握できるようになりました。学生からも、クイズ感覚で問題を解くことにより内容の理解につながると、高い評価を得ています。

(理工学部物理学科教授 鈴木潔光)



## TOPICS /// 「平成25年度 新任教員FDセミナー」開催

01

平成 25 年 7 月 30 日、日本大学会館において、平成 25 年度に新たに採用された助教以上の専任教員 118 人を対象に「平成 25 年度 新任教員 FD セミナー」が開催されました。参加者の一人、工学部の種ヶ嶋尚志助教にセミナー参加の感想を聞きました。

「新任教員 FD セミナー」を受講して、日本大学における FD 活動の取り組みや、現在、試行錯誤しながら進められている FD 活動の状況などがよく分かりました。本学の教育理念である「自主創造」に寄与する重要な活動の一つが、教員の教育力向上であることを、再認識する機会にもなりました。

セミナーで最も印象に残ったのは、経

済学部辻忠博教授の講演の中で、「優れた研究を行っていることと、教育力は相関するわけではない」と結論付けた、立命館大学の安岡高志教授が行った調査結果の紹介でした。研究活動をおろそかにしてよいとは思いませんが、研究活動が教育力を磨くことに直接的には関係が乏しいと理解できたことは、「学生の主体性を引き出すにはどのようにしたらよいのか」という問いに対するヒントをいただいた気がします。

FD 活動を充実するための一つとして、「全国私立大学 FD 連携フォーラム」が実践的 FD プログラムを展開していることを知りました。このプログラムは、オンデマンドでさまざまな講義を視聴でき、授業改善に役立てるといもので



新任教員FDセミナーの様子。

した。私も視聴しましたが、とても刺激を受ける内容で、多忙な教育研究活動の中でも必要な時に好きな場所で視聴できるため、とても助かります。

今後も、セミナーで知った情報などを活用しながら、自身の教育力を向上させていきたいと思えます。

(工学部総合教育助教 種ヶ嶋尚志)

## TOPICS /// 「全国私立大学FD連携フォーラム」に加盟

02

日本大学は、平成 25 年 4 月から「全国私立大学 FD 連携フォーラム (JPFF)」に加盟しています。これにより、本学の教職員は「実践的 FD プログラム・オンデマンド講義」の視聴が可能となりました。

平成 20 年に発足した JPFF は、中規模以上の私立大学の FD に関するネットワークです。今日の大学は、多様な資質を持つ学生が入学することを前提として、教育の質を高める努力をたゆみなく続けています。JPFF は、そうしたさまざまな課題について、率直に意見や情報が交換できる場を提供する組織です。

本学が JPFF に加盟した理由の一つが、「実践的 FD プログラム・オンデマンド講義」の利用にあります。これは、大学教育の専門家による FD に関する講義の動画を、オンデマンドで視聴できるというものです。テーマは、「現代の高等教育」といった概論的なものから、「授業設計論」といったテクニカルなものまであり、新任教員ばかりでなく、一般の教職員や管理職にある教職員にも役に立つコンテンツが含まれています。

FD 活動にも、ヒト、モノ、カネ、情報といった資源が必要ですが、特に情報については、JPFF 加盟により、貴重な宝庫を手に入れたといえるでしょう。



JPFF 会員校ミーティング・懇談会東京会場において、テレビ会議システムにより関西会場と交信している様子 (平成 25 年 12 月 23 日開催)。

なお、「実践的 FD プログラム・オンデマンド講義」の視聴方法は各部科の FD 担当部署にお問い合わせください。  
(全学 FD 委員会プログラムワーキンググループリーダー 村田英治)

※本ニュースレターに記載した役職・資格等は、平成 26 (2014) 年 3 月現在のものです。

### 日本大学 FD NEWSLETTER 第 5 号

発行日: 平成 26 (2014) 年 4 月 1 日 [年 2 回発行] © 次号は 6 月発行予定  
 発行者: 日本大学 FD 推進センター センター長 牧村正治  
 〒102-8275 東京都千代田区九段南 4-8-24 電話: 03-5275-8314 FAX: 03-5275-8315  
 e-mail: adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp http://www.nihon-u.ac.jp/about\_nu/effort/fd-center/  
 所管部署: 日本大学 本部 学務部教育推進課  
 企画・編集: 日本大学全学 FD 委員会教育情報マネジメントワーキンググループ

「日本大学 FD NEWSLETTER」に関する御意見や御感想などがありましたら、学務部教育推進課 (adm.aca.eps@nihon-u.ac.jp) へお寄せください。  
 本ニュースレターに掲載した文章、写真等の無断転載・複製を禁じます。 Copyright (C) Nihon University 2014 All Rights Reserved.